



☆ 傾聴⑦・・・認知症への理解



今回から認知症の方への傾聴について考えていきます。相手に対し真摯に耳を傾け聴く姿勢、共感や相手を認め受け入れる気持ちを大切にするなど、傾聴の心構えは対象が誰でも同じです。ですから認知症の方に対しても、これまで述べてきたようにお話を伺えばよいのですが、最初に簡単に認知症について述べておきたいと思います。

現在は認知症への関心も高く、認知症と言ってもアルツハイマー型や脳血管性、レビー小体型、前頭側頭葉変性症（ピック病）などがあることをご存知の方も多いと思います。正確に言えば認知症とはこれら進行性の脳の病気によって引き起こされる、記憶を始めとした認知機能が低下していく症状のことをいいます。進行性の病気のために、加齢による物忘れと違って認知機能が徐々に低下し、症状は重くなっていきます。現在は研究が進み、病気のタイプや進行の段階にあった治療と介護をすれば、症状が進むのを遅らせることも可能です。反対に適切な治療と介護がないと症状が進みやすく、介護も大変になるとい

ます。もう少しいえば、物忘れや時間・場所がわからない、判断力や理解力の低下など、「中核症状」と呼ばれる知的機能の障害からくる症状と、物取られ妄想や徘徊など「周辺症状」と呼ばれる症状があり、この周辺症状は対応の仕方によって改善ができるのです。つまり、認知症の方への傾聴は、こうした症状の改善にも役に立つといえましょう。

認知症の初期の頃は、今までの自分と違ってきたということに本人も気がついて、とても苦しむという話を聞きます。「同じ話を繰り返す」「何回言っても同じことを聞いてくる」といった場合、教え込もうとしたり言い聞かせたりするのではなく、とにかくじっくり話を聴く姿勢が大切です。自分の話を聴いてもらえる安心感が、精神的な安定につながります。そうした時にはぜひ“傾聴モード”に切り替えて話を聴きましょう。今回はこの“傾聴モード”についてお話したいと思います。（足立 記）

☆ 情報提供のコーナー 高齢者が陥る依存症（アルコール依存）

高齢者のアルコール問題が増えた原因の1番の理由は、簡単な事ですが昨今の日本の極端な高齢化です。この記事を書いている10月の段階で、今年度中に100歳以上の人口が5万人を超すそうです。元気な高齢者が増える事は喜ばしい事なのですが、アルコールの弊害に限ると看過できない状況があり、団塊世代の定年や退職が増えると共に、熟年離婚が増加しています。職業を失う喪失感や病死に

よる奥さんとの別離も含めて寂しさからアルコールに走る事が増えているのです。

高齢者の問題飲酒では、幾つかの点が指摘されています。特に気になる点が「転倒」です。若者に比べて飲酒による転倒が、極端に増え、多くの場合頭部を殴打します。

まわりに助けを求める事も多いのですが「こわい、きたない、くさい」の3Kがわざわざ拒絶される例も目立つようです。今回は「高次脳機能障害」についてです。

（裏面もご覧ください）

☆ 「白い箱の会」の活動が表彰される事になりました

この度、「会」のボランティア活動が評価されて「東京都社会福祉協議会」より表彰される事が決定したとの書類が先日届きました。

12月18日の14時から都庁第1本庁舎 5階 大会議場 で「東京都社会福祉大会」で東京の社会福祉の発展に貢献のあった社会福祉関係者を表彰し、感謝の意を表す。

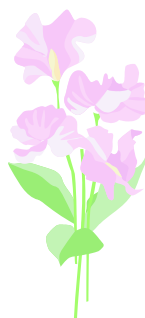
本表彰を通して、優れた活動内容を紹介する事により、福祉活動の普及・推進を行い、誰もが安心して暮らせる社会の実現を図るものとする。

「白い箱の会」の生みの親で初代代表の「松尾千賀子」さんが常に目指していた思いが「おおよけ」（東京都社会福祉事業団）に認められ、評価されました。この結果を受けて、賛助会員の皆さんの日頃のご支援に深く感謝すると共に、今回の事を一緒に喜び、これからの「白い箱の会」の活動に今後とも深いご理解お願いいたします。

☆ これからの「白い箱の会」の活動について

- 1、年内に「傾聴」をテーマにした講座を3～4回の予定で実施する予定です。
- 2、年度内（3月中）に「料理講座&？」を予定しています。

各講座についての詳細は、決まり次第賛助会員の皆様には郵送等で、その他の方には、「私の忘れ物」を通してお知らせします。



本事業は歳末たすけあい運動募金を財源とした、練馬区社会福祉協議会の助成金を活用しています。

☆ 連絡先：「白い箱の会」事務局（福原方 TEL:FAX 3993-5054）まで。